



ゆうごう



設立1周年記念フォーラムの概要固まる

日時 1998年8月1日(土) 10:00~18:00

途中参加、途中退席とも自由です。

場所 習志野市サンロード大会議室ほか(同封の地図をご参照ください)

内容

- ・10:00~10:15 第2回学校と地域の融合教育研究会総会
- ・10:15~12:00 **講演「21世紀の生涯学習と学社融合」(仮題)**
講師、文部省生涯学習局生涯学習振興課長 寺脇研氏
- ・13:00~15:00 **パネルディスカッション「学社融合への具体的方策」**
分科会提案者が行います。参加者は提言を聞いて、どの分科会に参加するかを決めていただきます。(コーディネーター 学校と地域の融合教育研究会副会長 岸裕司)
- ・15:00~15:45 **ゲストスピーカーより**
ゲスト ブライアン・アシュレイ氏(スウェーデン、社会学者・教育学者)
パネルディスカッションを聞いていただき、ご自身の考えを元にコメントをしていただきます。
通訳 習志野市国際交流協会会員、会社員 高橋寛氏
英語のみならず中国語にも堪能な方で、ボランティアでご協力くださいます。
- ・16:00~18:00 **分科会**(パネラーとして提言した内容の詳細を検討します)

世代間をつなぐコミュニティ活動(提言者、千葉県市川市サンシャインクラブ「瀧野英一」氏)

19年前から脈々と続く、市民からの盛り上がりによる「草の根的な」コミュニティ活動は、単に子どもを育てるだけでなくそれに関わる青年や大人も育つことを理念にしている。さらに活動の企画・運営のほとんどが青年スタッフに任されており、大人はそのサポートに徹している。したがって、成長し青年期を迎えても活動を続ける若者が多い。その成功の秘訣について若者の声を交えて提言していただきます。

高齢社会と学校・社会の融合(仙台市シニアネットクラブ「庄子 平弥」氏)

高齢化社会の社会構造の変革に備え、新しい時代の高齢者の生きがいづくり、生涯学習活動の在り方を模索し、高齢者を情報弱者にしないための活動を実践しているユニークな事例を紹介し、学校開放と地域融合教育への取り組みと、これを実現させるまでに関係者の理解と協力をどのように取り付けたか等、具体的な体験を語りながら具体策を提言していただきます。

学校・社会の融合と行政の役割(栃木県鹿沼市教育委員会「越田 幸洋」氏)

「教育行政」からの発信は、とかく上からの押しつけになりがちですが、地域に積極的に受け入れられ、生涯学習社会の建設に寄与している事例をもとに、成功の背景にある配慮点や現在の課題などについて提言していただきます。

過疎化地域における学校・社会の融合（山梨県早川町立早川南小学校PTA「望月利和」氏）

とかく「へき地＝情報も過疎地」と思われがちですが、パソコンを備えた学校図書館の充実により、読書・学習情報センター的機能を持ち、世界に開かれた学校として地域文化の発信地の役割を持つようになってきました。文化の発信・受信を核とした学校と地域の融合のありかたは、他の過疎地のモデルとして注目されております。

学校と地域との融合による町づくり（習志野市秋津コミュニティ「野口陽一」氏）

「読売教育賞」最優秀賞受賞の事例を元に、その後の学校と地域の融合の進展とその理念や留意点を提言していただきます。

施設見学（ラムサール条約登録湿地「谷津干潟」、および習志野市立秋津小学校コミュニティルーム）

都会のビルの谷間に残された野鳥の飛来地として、ラムサール条約で世界登録湿地に指定されている「谷津干潟」と、同地を学区にし、一年中朝9時から夜9時まで学校の余裕教室を地域開放している「秋津小学校コミュニティルーム」の見学です。

18：30からの懇親会も、「秋津小学校コミュニティルーム」で行います。

パネルディスカッション・分科会は、「地域性（過疎・過密、歴史のある・なし等）」と情報の発信源（行政・市民・その一体、等）」など、多彩な特色があります。

講師「寺脇研」氏について

1952年生まれ。文部官僚でありながら「マンガ論」（「本の窓」1998年3月号、小学館）を書いたり、「中学校の業者テスト廃止」を手がけたりした人です。また、映画にも造詣が深く、多彩な方です。「世界」1998年2月号（岩波書店）では、「学校をどう変えて行くか」をテーマに宮台真司氏（都立大学助教授）と対談。広島県教育長を経験。

おもな著書「なぜ学校に行かせるの？」（日本経済新聞社）

「21世紀へ教育は変わる」（近代文芸社）

「動き始めた教育改革」（主婦之友社）

ゲスト「ブライアン・アシュレイ」氏について

スコットランド出身。社会学者、教育学者。エジンバラのモーレイ・ハウス教育大学コミュニティ・スタディ学部長として、長年に亘りソーシャルワーカー、ユースワーカーの育成に携わる。福祉事業促進および青少年対策に関する政府のいくつもの委員会や研究会に関わる。国際的な子どもの遊びや権利の確立の促進に積極的に関心を持ち続けている。

「日本学校・家庭・地域教育研究会」との共催については、先方の役員会で検討の結果日程の折り合いがつかず、今回は融合研のみの主催になりますが、次の団体が後援をさせていただきます。

1．習志野市教育委員会

今回のフォーラムの会場提供をはじめ、本会の事務局がある秋津小学校地域では、住民の自主管理による余裕教室（コミュニティルーム）開放など、様々な面で住民の生涯学習推進にご理解・ご援助をいただいております。

2．IPA（子どもの遊ぶ権利のための国際協会）日本支部

遊ぶことは子どもの成長過程でもっとも大切なことと考え、人々に遊びの大切さを訴え、遊びの環境をよくしていくためにできること、なすべきことを研究し、それを社会に向かって提言している団体です。1940年代からヨーロッパで「廃材遊び場」「冒険遊び場」づくりを熱心にやっていた人たちが、都市化が進む社会ほど遊ぶ環境が悪くなることを心配して、1961年にIPAを発足させました。その後、ユネスコ/ユニセフの諮問団体として認められ、1987年には国連平和の使者として任命されました。日本支部は、国連が国際児童年と定めた1

979年に発足しました。

3. 手をつなぐNPOの会「千葉」

千葉県内にある様々なNPO団体（非営利組織）が、それぞれの活動の情報交換および活動協力を主眼として1998年5月に発足しました。その前身は、前年の11月に「千葉県開発教育研究会」が開かれた際、参加した様々な団体（特にボランティア団体）の代表から上記の意見が出され、それが発足の母体となっています。それぞれの団体は 独自に市民組織を持ち、独自の活動をしながらネットワークを持ち活動することになっています。（事務局、千葉YMCA）

4. まちワーク研究会

「子どもと進める環境まち学習、まちづくり」をテーマに、教育関係者、都市計画プランナー、建築家、造園家、行政マンなどが参加して、実際のまちづくり、まちおこしにつながる学習プログラムの開発を進めています。情報誌「子ども&まち」の発行や、イギリスとの交流を通しての先進例の紹介、具体的なプログラム研究などを進めています。

会費 無料

資料代 会員 1,000円 会員外 2,000円

会員会費（1998年度分）を、未納の会員は3,000円になります。

宿泊を希望される方は、事務局に7月20日までにご連絡されるか、ご自分で予約をしてください。

申込みはFAXでお早めに。（知人もお誘いください）

FAX. 043-489-7809 または、0474-51-8111、

-----きりとりせん-----

学校と地域の融合教育研究会フォーラムに

参加します 宿泊を希望しません

宿泊を希望します 7月31日

8月 1日

をご記入ください

氏名 _____

連絡先 〒 _____

TEL _____

FAX _____

会員からのたより (抜粋)

(お近くの会員同士の情報交換ができるよう、会長の判断で実名を使わせていただきました。ご理解いただきたいと思ひます。)

本校では、家庭・地域社会との連携の推進を少しずつではありますが進めてまいりました。市街地にあり、保護者や地域社会の協力を仰ぐにも簡単にはまいりませんが、やっと、PTAの組織も変え、子どもたちの育成に必要な組織に生まれ変わろうとしております。過日も、PTA環境部と一緒に「京葉の自然環境の見直し」を実施いたしました。小さな活動ですが、地道な活動を展開すれば、きっと多くの賛同者を得ていくものと期待しています。以下、略(千葉県、豊島安明様)

中学生のナイフ等の事件に、言いようのない悲しみを覚え、秋津小学校の取り組みがいかに意義のあるものかと改めて感じたことでした。地域の人を受け入れている子どもたちが「一番えらいんだ」と思ひました。いろいろなところで対策がいはれていますが、いずれも分析や対症療法的なものを感じます。肩書をついた専門家より、おもしろくてすごい、やさしくてこわい、地域のおじちゃん・おばちゃんのほうがいい。じゃんけんをしてくれるおじいちゃんや、花を咲かせてくれるおばあちゃんの方が気持ちが伝わるし自分の存在を認めてくれるというあったかい人間の実感があると思ひます。(中略)

子どもが大きくなったのが大人ではない、子どもの心を失ったのが大人だといひます。大人の問題なのです。秋津のみなさんの当たり前のごさを感じます。以下、略

(長崎県、米村伍則様)

国や県は、5年・10年遅れてやっと手をつけるくらいです。青少年にとっての5年10年は、取り返すことのできない一生の内の大切な時期なのです。何もしない、という不作為の罪は、だれが責任をとってくれるのでしょうか。秋津の子どもたちはすてきな大人になるだろうと思うと、今大変な財産づくりをしているのだろうとつくづく感じ入りました。子どもたちに何を伝えるか、それは言葉ではなく、まさに大人の生き方だろうと思ひます。(続けて、長崎県、米村伍則様)

子どもたちに豊かな人間性を培うために、幾度も壁を乗り越えられた末に生まれた「できる人が、できるときに、無理なく、楽しく」という言葉の重み。私は学校を開くことを、受け身でしか考えておりませんでした。この危機的状況の中で、もう待つてはいけないんだという思ひを強くしました。(香川県高松市、森俊之様)

「今、学校がおもしろい。」まさしくそのような秋津小学校の取り組みでした。

(高知県南国市、池畠千恵子様)

高校に勤務しているが、取り組もうとするエネルギーを感じ、創造的に実行するところから新たなアイデアが生まれることも痛感した。一人ひとは原子の核のようですが、融合によって大きな力、エネルギーになることは未来形の学習像と思う。秋津小学校は肩肘張らず地域住民のなまの声を吸いあげて活動に取り入れている。これこそ民間活力を上手に活用できた例だと思ひます。(神奈川、有資格者セミナーでのアンケートより)

早速、本校での取り組みにどうするか、より細かな計画を立て始めました。本校ではクラブ活動や委員会活動・家庭科の授業等に地域の人たちの指導を得ながら取り組み始めたところ。図工クラブにウッドクラフトのお母さん、委員会では菊作り、フルート・バイオリン・ピアノの演奏にも来てくださるようになり、ようやく地域と共に子どもを育てていくという空気が流れ始めているなど感じているところ。 (滋賀県、老上小)

私は、大学を頭脳集団とみて、地球の発展に貢献してもらいたいとの願ひから、私たちのやっている雑学大学との共生・連携を模索中。よい案があったら教えていただきたいと思ひます。(西東京雑学大学、菅原範人様)

実践のすばらしさを学ばさせていただきました。地域に学校を開くということは、子ども、先生も、大人も育つことですね。(港区、株本光子様)

すばらしい取り組みが継続的に実践され、生涯学習社会の流れにしっかりと取り組んでいる企画力に頭が下がる思ひであります。本県の生涯学習も、学校教育を巻き込んだ方向、というより学校教育も開かれた中で多くの支援を受けながら進めていかねばならない現実をアピールすることに少しずつ成功しつつあることを示しております。できることからの実践を積み上げていき

いと思います。(宮崎県、永友康久様)

長い年月をかけての集団づくりといいましょうか、自己教育力を進める地域集団の積み上げがよくわかりました。教育的な善意というものは簡単には信じがたいものですが、時間をかけた仕事にはウソはないと思います。時と場と人を得たのでしょう。それは結果ではなく、まちづくりの過程ということでしょう。新開地の学校が自主的に所期の育ちを形成することは難しいことですが、よくこれだけなさいました。これからは、「親自然、親社会、親文化」とその成長をいかにして基本とするか考えてみるのが課題かもしれませんね。(目黒区、井口尚之様)

会員からの研究情報 (会報第2号のつづき)

前号に続いて、事務局に会員から届いた研究についての情報をお知らせします。今回は、情報多数につき、表題のみの紹介とさせていただきます。8月1日のフォーラムで展示しますので、参加する方はごらんください。また、関心のある領域については、ご自分で問い合わせるか、事務局までご連絡ください。

1. 西東京雑学大学 (理事長、菅原範人氏)
2. エコフレンド・環境教育材料としてのケナフのご提案 (代表、鈴木智子氏)
3. 女性の目からみたまちづくり「まちづくりレポーター報告書」 (館野早智子氏)
4. 子どもを育てる方向の共有化と活動の協働化 (栃木県鹿沼市教育委員会)
5. 地域人材の活用の在り方 (野田市、矢島基一氏)
6. 外国人労働者実態調査 (千葉県立千葉高等学校国際社会研究会)
7. 教育改革プログラム (文部省)
8. 生涯学習の成果を生かすための方策について (文部省)
9. 内田からの発信4 (千葉県市原市立内田小学校)
10. 開かれた学校実現への諸課題と学校の現状 (鳴門教育大、岩城孝次氏)
11. 北松社教連レポート (長崎県、北松浦郡社会教育連絡協議会)
12. 機関紙にみる活動の軌跡 (徳島県、子どもの街をつくる会)
13. 平成9年度「開放講座」のあゆみ (仙台市立柳生中学校)
14. ジュニアリーダーへの全市アンケート (仙台市、嘱託社会教育主事研究協議会)
15. 仙台市の社会教育概要 (仙台市教育委員会)
16. 学校・家庭・地域社会の連携事例 (文部省、生涯学習局社会教育官)
17. 研究紀要 (山梨県、早川町立早川南小学校)
18. 少年自然の家と学社融合 (宮崎県、御池少年自然の家)

- 19. 「学校週5日制完全実施に向けての学社融合施策について」の一考察（安田成秀氏）
- 20. 「わが町わが校の教育改革」実践事例集1（高知県教育委員会）
- 21. わがふるさと愛媛学 および（愛媛県、生涯学習センター）
- 22. 研究紀要(千葉県船橋市立海神小学校)
- 23. 名古屋市为学校公園の概要(名古屋世界都市景観会議'97)
- 24. 城下町西尾市の景観整備への子ども参加と教育に関する研究(研究代表者、寺本潔氏)
- 25. 「まちづくり」総合学習への構想 - - “参加”する生活科・社会科 - - (寺本潔氏)
- 26. 子どもの発達と社会・地域・家庭の連携（ブライアン・アシュレイ氏）

平成9年度 活 動 内 容 の 詳 細

(1) ミニフォーラム

- ・テーマ 「地域の人と楽しくクラブ活動を行うにはどのようにしたらよいか」
- ・日 時 平成9年12月20日(土)
- ・場 所 習志野市立秋津小学校コミュニティルーム
- ・参加者 19名(内、融合教育研究会会員15名)

・内容

- (1)主催者あいさつ 岸副会長
- (2)参加者自己紹介 (19名)
- (3)提案 「習志野市立秋津小学校教務主任」加藤稔教諭
資料(別紙)をもとに、学校の子どもや教員がどのように感じているかを発表
提案 「秋津小学校クラブ活動員」間藤清美
実際に秋津小学校でクラブ活動をしている地域の大人が、どのように感じながら活動しているかを発表
提案 「日本教育新聞社」矢吹正徳
記者の目から、全国各地の状況について報告

(4)提案をもとに、フロアーの参加者がどう感じているかを自由討議 (秋津小学校のクラブに参加している方から)

- ・初年度は、募集しても「指導できない」ということで、自主的に申し出てくれる人は少なく、人づてにいろいろなお願ひしてのスタートであった。
- ・今、活動をしていて、地域の子どもと関係が持てることに、会社にはない新鮮さを感じる。クラブの子が、教室に帰ったら「先生役」になれるのがよいのではないか。
- ・子どもに能力差があるので、大人を増やして楽しさを学ばせたい。子どもが自宅まで訪ねてくれたりするので嬉しい。高齢化の時代、子どもと触れ合う機会を求めている人は多いと思う。つながりの接点を考えていきたい。
- ・我が子がだんだん暗くなってきた時期があった。子どもには言葉で言ってもダメ。何か親の姿を見せてやろうと思ったのがきっかけであった。地域のパソコンクラブの方にメールを送るコミュニケーションだけでも楽しい。

- ・会社では軋轢があるが、それがいい純粋な心の開放の世界である。
- ・世の中で「いい生き方」をしてみたい。地域での家族ぐるみの付き合いができる。
- ・オープンであることの心地よさがある。
- ・大人として毎年続いている理由は、我が子とは違ったいろいろな子どもと出会える楽しさと、自分が関わっていく楽しさだろうと思う。
- ・学校と地域の関係で、「学校が主人」という考え方が変わらなければ、学校は変わらない。教師の文化を変えていく「一般市民文化」の研修が必要である。
- ・「地域の人の力が役に立っているなら、できる力はお貸しします。それで余裕が出たら、その分は他のことにどうぞお使いください。」という心境です。
- ・開拓時代のアメリカを例にするまでもなく、教師にとっては職業としての学校であるが、住民にとっては自分の子どもがどうしたら「良い子」になるかという願いで学校をつくってきた。だれが子どもを大切にしているかは明白である。

(他の地域の方からの意見も交えて)

- ・アンケート結果の教師の意見の中に、「地域の方に入っていただく必要性を特に感じていません」というのがありますが、教師の必要性で決めていくことなのだろうか。地域のつながりの中で子どもを見つめていきたいと思う。そのこと自体は学校が良くなることにつながっていると思う。
- ・行政主導で子どもを抱き込んだまちづくりの予算がついた。その発想は素晴らしいが、行事をこなすことになりがちである。しかし、原点は町づくりにある。来れば、いろいろな人と会えるから楽しい。会社とは違った話ができて、思ったことが可能になる喜びもある。そこに、新しい自分の発見もある。市民活動が活性化する原点はこんなところはないだろうか。
- ・行政主導であっても、その組織を地域のものとして再編成して、自分たちの町のものとして運営できる喜びになる。子どものためだけでなく、自分自身のためなのだと思う。
- ・目標があるから、単なる「仲良しクラブ」にならない。
- ・まず動く。理屈はあとからついてくるという活動が長続きするのではないか。
- ・しかし、教師の休日の確保等の制度上の問題は未解決である。
- ・地域と学校(教師)は、両輪である。教師も自分の地域で生涯活動に参加してみたらよいと思う。
- ・こういった地域の人々の思いが教師に届いているのだろうか。
- ・既存の物をこわして新しいものを作っていきエネルギーに、このようなクラブ活動の意義はあるのではないか。それを共通認識に高めていくには、コーディネートする人が必要であろうが。

(感想)

非常に活発な協議が続いた。立場の違いからこれまで本音で語れなかったことにも突っ込んで討議できた。「クラブに地域の方を」というのがすぐに実現できる訳ではないという地域もあった。しかし、この協議の過程で、参加者のどの人の中にも、クラブに限らずいろいろな試みの可能性が発見できたことは大きな収穫であった。

(文責、事務局「宮崎」)

(2) 手をつなぐNPOの会「千葉」第一回集会

平成9年11月に千葉県柏市で開催された「千葉県開発教育研究会」に、会長・副会長が個人の資格で参加しました。参加した各団体の方々で「ネットワークをつくらう」ということになり、上記の会ができました。その活動内容は、[融合研の趣旨に合致する]ということで、連携しあって活動していくことの意義を感じているものです。その第1回集会が秋津小学校と同コミュニティルームで開催されました。

- ・日 時 平成10年5月30日(土)
- ・場 所 習志野市立秋津小学校・同コミュニティルーム
- ・参加者 35名(内、融合教育研究会会員 11名)

・内容

(1)秋津小学校クラブ活動参観

(2)主催者あいさつ 岸副会長

(3)参加者自己紹介

提案「習志野市立秋津小学校校長」

「学校と地域の融合教育研究会会長」 宮崎 稔

(なお、詳細は次号でお知らせいたします。)

学校と地域の融合教育研究会

平成9年度 活動報告

会の趣旨の一つである「情報交換」を主とした1年間でした。そこで、会長・副会長の情報活動およびその活動母体である秋津小学校および秋津コミュニティの動きを主に報告します。なお、拡大文字は「会としての活動内容」です。

(その1)会長および秋津小学校の活動

学校参観	原稿執筆等	取材等	講演	・その他
4. 1 2		NHK取材		
4. 1 4		ぎょうせい「悠」		
5. 3 1		草土文化「子どものしあわせ」取材		
6. 6		草土文化「子どものしあわせ」取材		
6. 7		千葉県辰己台西小より3名参観		
・ 6. 2 1		ビオトープを見学「千葉県小倉台小」		
6. 2 3		読売新聞取材		
・ 6. 2 8		ミニフォーラム「講演、岸田心さん」「パネラー 岸田、岸、宮崎」		
6. 2 8		習志野市広報取材		
・ 7. 4		「読売教育賞」受賞式		
7. 5		読売新聞取材		
7. 7		市広報課取材		
7. 9		国立境教育研修所長期研修生1名参観		
・ 7. 1 2		「読売教育賞」受賞を祝う会		
7. 1 5		千葉県県民プラザ指導主事1名参観		
・ 7. 2 0		防災ディキャンプ(秋津幼稚園と合同)~21日		
7. 2 2		国立教育研修所長期研修生2名参観		
7. 2 9		読売新聞取材		
・ 8. 3		学校と地域の融合教育研究会発会式		
8. 7		千葉県県民プラザにて「生涯学習入門講座」講師		
8. 1 1		栃木県佐野市教育委員会より11名参観		
・ 8. 1 8		読売新聞掲載(受賞者を追って)		
8. 2 0		「千葉教育」執筆		
9. 1 0		徳島県鳴門教育大学より参観1名		
・ 9. 2 0		秋津小「第2回学校と地域の大運動会」実施		
9. 2 9		文部省「第3回全国ボランティア活動推進連絡協議会」講師		
9. 3 0		ぎょうせい「悠」執筆		
10. 4		東京都足立区教育委員会より3名参観		
・ 10. 6		建設省「防災まちづくり会議委員」出席		
10. 2 0		さわやか財団「さあ、言おう」執筆		

- 10.18 「ぎょうせい」より取材
- 10.21 栃木県鹿沼市教育委員会より7名参観(習志野市教委より7名同席)
- 10.23 P T A連絡協議会千葉県大会 分科会講師
- 10.28 静岡県大井川町教育委員会より6名参観(習志野市教育委員6名同席)
- ・11. 8 「千葉県開発教育セミナー」参加 ~ 9日
- 11.14 宮崎県宮崎市社会教育委員3名参観
- 11.14 栃木県佐野市社会教育委員他18名参観
- 11.17 千葉県小学校長会「研究紀要」執筆
- 11.20 神奈川県川崎市より13名参観
- ・11.26 秋津小学校が習志野市教育功労賞受賞
- 11.28 長野県須坂市教頭会より7名参観
- ・12. 2 国立社会教育研修所「生涯学習のてびき(仮称)」発行委員会
- 12. 5 新潟県上越教育大学より1名参観
- 12. 9 北海道札幌市立新琴似南小より1名参観
- ・12.20 ミニフォラム開催「クラブ活動への保護者の参加」 1.15 全日本
社会教育連合会発行「社会教育」執筆
- 1.16 「全国ボランティア大会神戸大会」分科会講師
- 1.19 東京都港区教育委員会「社会教育セミナー」講演
- ・1.22 国立社会教育研修所「生涯学習のてびき(仮称)」発行委員会
- 1.23 群馬県伊香保町立伊香保小より15名参観
- 2. 4 「神奈川県社会教育主事有資格者セミナー」講演
- 2. 6 香川県高松市立二番町小より参観1名 ~ 7日
- ・2. 8 千葉県市川市二中学区ナーチャリングコミュニティ参加
- 2.16 千葉県生涯学習部生涯学習推進課より3名参観
- 2.17 「習志野市青少年問題協議会」講演
- ・2.19 国立社会教育研修所「生涯学習のてびき(仮称)」発行委員会
- 2.21 高知県高岡郡窪川町教育委員会主催「共励会」講演
- 2.22 国立社会教育研修所発行「生涯学習のてびき(仮称)」執筆
- 2.24 栃木県小山市立間々田小学校より2名参観
- 2.26 国立社会教育研修所「社会教育施設長研修会」講演
- 3. 6 宮城県仙台市教育委員会生涯学習課より4名参観
- 3. 6 山形県真室川町立真室川小より1名参観
- 3.10 埼玉県草加市立青柳中より4名参観(生活科)
- ・3.14 新習志野公民館生涯学習フェスティバルに参加
- 3.15 埼玉県久喜市生涯学習推進部より21人参観
- 3.17 日本教育新聞より取材「異論正論」
- 3.20 宮崎県立むかばき少年自然の家より1名参観
- ・3.29 手をつなぐNPOの会「千葉」設立準備会(副会長・事務局長が参加)
- 3.29 融合教育研究会役員会

ここまでの合計

参観 126名(24回)
 執筆 7回(誌)
 取材 10回(誌)
 講演 9回

・その他

資料請求は多数

(平成10年度 これまでの動き)

- 4. 4 千葉大学より1名参観
- 4.12 I P Aより1名参観

- ・ 4 . 2 7 建設省「防災まちづくり会議」参加
- 5 . 1 3 習志野市小中学校校長会提案
- ・ 5 . 1 8 秋津コミュニティおよび秋津小学校コミュニティルーム運営委員会総会
- 5 . 2 5 読売新聞社より取材
- 5 . 2 9 習志野市新習志野公民館での学習圏会議で講演
- ・ 5 . 3 0 千葉県NPO会議（於．秋津小学校）
- 5 . 3 0 明治図書「学校パラダイム」執筆
- 6 . 3 千葉県船橋市海神小学校で講演
- 6 . 9 NHK海外放送より取材
- 6 . 1 0 日本経済新聞社より取材
- 6 . 1 8 高知県南国市より1名参観
- ・ 6 . 2 0 秋津小学校教職員と地域住民代表との会議「今後の融合の進め方」
- 6 . 2 4 ちばテレビ（ctc）より取材打合せ

（これからの予定）

- ・ 7 . 1 秋津小学校ビオトープ研修会
- 7 . 8 千葉県長生地区教育出張所で講演
- 7 . 1 5 地域文化教育経営情報執筆
- ・ 7 . 1 9 第2回防災被災訓練をかねたディキャンプ(秋津幼稚園と合同)～20日 7 .
- 3 1 教職研修執筆「特殊区ある教育活動と学校経営」
- ・ 8 . 1 融合教育研究会設立1周年記念フォーラム
- 8 . 6 千葉県総合教育センター特別活動講座で講演「岸裕司」
- 8 . 6 千葉県生涯学習講座で講演
- 8 . 2 5 新潟県生涯学習推進センターで講演
- 8 . 2 6 長崎県生涯学習講座で講演
- 9 . 1 1 静岡県御殿場市役所より12名参観
- ・ 9 . 1 9 秋津小学校「第3回学校と地域の大運動会」
- 9 . 3 0 全国生涯学習フェスティバル(明石市)で講演
- 1 0 . 2 2 千葉県東総地区校長会より17名参観
- ・ 1 0 . 2 3 秋津っ子祭
- ・ 1 0 . 2 4 秋津まつり(～25日)・・・おばけ屋敷・秋津っ子バザー開催
- ・ 1 . 1 3 ちばテレビ放映「学校と家庭との連携を深めて」
- 1 . 2 2 千葉県派遣指導主事・社会教育主事41名参観

その2．副会長の活動及び秋津コミュニティの活動

ここからきり貼りする

<切り貼り部分鋭利解読中>

（感想）

以上のようなさまざまな活動をしてきましたが、当然ながら一校長、一企業人としての活動もあるわけで、スケジュールがびっしりで多忙であったことは事実です。しかし、各地でお会いする方々の人間性に触れ、楽しい日々であったこともまた事実です。そして、そういった方々のまちづくりにかける熱い思いに接するにつけ、この会の重要性を再認識いたしました。

予定した会としての活動が滞ったり、逆に予定外の新たな活動が入ったりという、先の見えない1年間で、会員の皆様にはご迷惑もおかけいたしました。これからも「手づくりの会」の特色を生かして、無理なく長続きできるように続けていきたいと思っております。

（文責、宮崎）

平成9年度会計報告

1. 収入の部	172,516円
(内 訳)	
会費(77名)	156,000
資料代	16,000
総会残金	503
利息	13
2. 支出の部	81,000円
(内 訳)	
通信費(切手・はがき)	60,370
宛名シール	700
書類ケース	1,837
会報用紙	7,352
封筒	3,636
会議費(茶菓)	7,105
3. 差引残高	91,516円

残金91,516円は、平成10年度に繰りこします。

学校と地域の融合教育研究会会計(事務局) 野口陽一 印
 矢吹正徳 印
 宮崎雅子 印

会計監査報告

平成9年度会計は、上記の通り相違ないことを報告いたします。

平成10年6月30日 学校と地域の融合教育研究会
 監事 野澤令照 印
 吉川真紀 印

<p>次号の予告 前号で予告しておきながら、誌面の都合で今回できなかったものです。 学校開放の問題点について 会長所感(なぜ、融合研の設立を思い立ったか) 今後のミニフォーラム予定 全体会について イベント案内 その他(会員からの情報)</p>	<p>編集後記 前号から、期間があいてしまいましたが会報をお届けします。活動報告にもありますように、随分情報が入るようになり、またいくつかの会で「またお会いしましたね。」という会話が交わせるようになりました。仲間が増えるって楽しいものですね。ただ忙しすぎて折角のパソコンがまだ覚えきれず、会報はワープロ打ちです。次号こそ、パソコンで楽しい誌面にして発行するぞ! 乞う、ご期待。</p>
--	--

次号に載せるもの

会長所感(No.2)

1. 何故、融合研の設立を思い立ったか。
2. 何故、読売教育賞に応募しようと思ったか。
3. 自分の教育者人生とは何であったか。

素直な気持ちで。

4. 融合教育研究会の活動からの課題

ここでは、発会の時の設立趣意書や総会宣言等から、数回に分けてミニフォーラムのテーマとして分けて検討できるものを計画的に予定する。そのた、連合PTAでの指導等から生まれてきた新たな課題も計画に入れる。

会長所感に続いて

講演原稿より

連載「融合キーワード辞典」No.1 編集後記

会場の仮押さえ分

- 1、大会議室(100人収容) 9:00~17:00
全体会、パネル、分科会に使用
- 2、特別会議室(20人収容) 9:00~21:00
講師控室、役員会、分科会に使用可能
- 3、和室(舞台付き12畳) 13:00~17:00
役員会、分科会に使用可能

借用にあたっては、無料。契約管財課が所管であるが、教育委員会学務課を通すこと。

今後の仕事

- 1 市教委に連絡、参加を募ってもらう。(4.6にまず連絡済)
- 2 会員に連絡(会報で)
- 3 当日の内容をつめる
 - ・時程
 - ・テーマ(講演、パネル、分科会)
 - ・登壇者(パネル、分科会提案)
- 4 当日までのタイムテーブル作成
- 5 当日の各担当者(司会、記録、受け付け、接待等)の決定
- 6 その他(謝礼等、雑誌への案内掲載、